大阪　市長　　磯村 隆文殿

大阪府知事　　横山ノック殿

釜ヶ崎反失業連絡会

9月以降の対策の量的質的強化について

　７月１８・１９日、「勝取る会」が西成区内で野宿を余儀なくされている労働者を確認したところ、2，229人であった。昨年８月の市大調査は、1，９１０人であったので、単純に計算して３１９人増である。市内各公園の野宿者数は昨年8月に比べ、どこも増加しているといわれている。

野宿者は増加し、長期にわたって有効な対策が打ち出されず放置されている。大阪市民生局に担当部長が一人増えた。しかし、事態は何も変わっていない。緊急・最低限の対策としての「センター夜間開放」一ヶ月延長が決まっただけである。

　大阪府市協調して、現状よりも量的、質的に上回る対策を打ち出すよう要請する。

　雇用創設基金の予算は確定した。大阪府・市ともに知恵を絞って雇用を創出し、釜ヶ崎の日雇労働者・野宿を余儀なくされている労働者に就労機会を与えることに努められたい。

記

1. 緊急の寝場所対策と食対策を、８千人規模で実施すること。
* 具体的に9月以降の対策を明らかにすること。（緊急的に、南海電車天下茶屋線跡地に越年臨泊並のプレハブを建てること。簡易宿泊所を借り上げ、野宿者を入居させること。食堂と契約し、食券を発行されたい。）
* 緊急・一時的でない対策について明らかにすること。
* 越年対策（臨時宿泊所）について、今年度の方針を明らかにすること。
* 大テント敷地を正式に貸与すること。（同時に、隣接するゲートボール場についても貸与を検討すること。ゲートボール場の貸与ができなければ、大テント敷地と位置を交換すること）
1. 就労対策を３千人規模で実施すること。その際、日雇雇用保険と組み合わせ、最大限の吸収が計れるよう考慮すること。
* 釜ヶ崎における雇用創出基金の適用システム・方法について明らかにすること。
* 大阪市が公的雇用創出として準備している仕事を明らかにすること。
* 大阪府が公的雇用創出として準備している仕事を明らかにすること。
1. 各区に「リサイクルセンター」を設置し、釜ヶ崎労働者の就労場所とすること

各区に生ゴミ以外の一時集積所を設け、資源ごとの分別を徹底し、再利用を計ることは人類の義務に応える道である。釜ヶ崎労働者は分別作業を担うことで人類の未来に貢献する。とりあえず、各区百人として2,400人、交代要員を入れて3,000人の就労が可能となる。経費は産業界に負担を求める大義名分もある。

1. 大阪市更生相談所条例を見直すこと。

　施設収容第一主義を改め市更相相談受付者についても、簡易宿泊所を居所とした居宅保護の基準を加えること。